

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-514817(P2000-514817A)

【公表日】平成12年11月7日(2000.11.7)

【出願番号】特願平10-506662

【国際特許分類第7版】

C 0 7 H 17/08

A 6 1 K 31/7048

A 6 1 P 31/04

【F I】

C 0 7 H 17/08 B

A 6 1 K 31/7048

A 6 1 P 31/04

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月13日(2004.5.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年5月13日

特許庁長官 今井 康夫 殿

1. 事件の表示 平成10年特許願第506662号

2. 補正をする者

名 称 アベンティス ファルマ ソシエテ アノニム

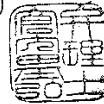
3. 代 理 人

〒103-0027

住 所 東京都中央区日本橋3丁目13番11号

油脂工業会館3階 (電話 3273-6436番)

氏 名 (6781) 弁理士 倉 内 基 弘



同

住 所 同 上

氏 名 (8577) 弁理士 風 間 弘 志



4. 補正対象書類名 明細書、請求の範囲

5. 補正対象項目名 明細書、請求の範囲



方 式 査 査



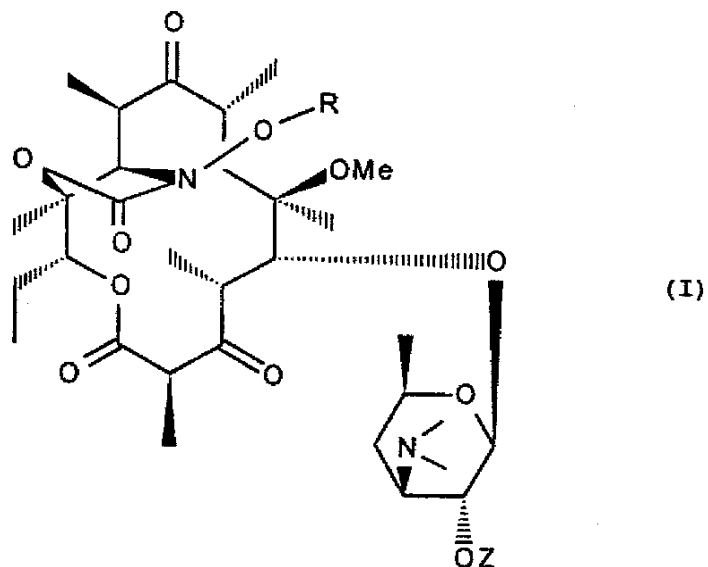
6. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙に記載のように補正する。

(2) 明細書第2頁下から第1行～第3頁第3行の「置換されていてもよいアリール若しくはヘテロアリール基、炭素環式アリール、O-アリール若しくはS-アリール基、又は1個以上のヘテロ原子を含有する5員若しくは6員のヘテロ環式アリール、O-アリール若しくはS-アリール基」を「アリール若しくは1個以上のヘテロ原子を含有する5員若しくは6員のヘテロアリール基」と補正する。

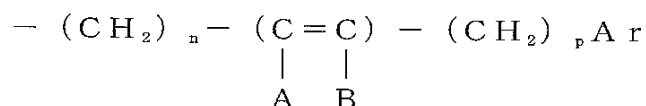
請求の範囲

1. 次式 (I) :



{ここで、

Rは水素原子、ハロゲン原子により置換されていてもよい12個までの炭素原子を含有するアルキル基、又は式： $(CH_2)_m Ar$ の基若しくは次式：



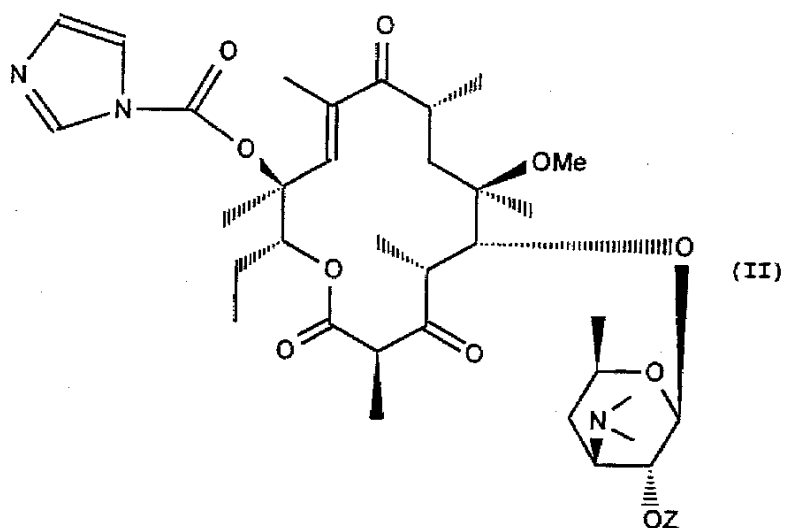
(両式において、mは1～8の整数を表し、n及びpは同一であっても異なってもよく、0～6の整数を表し、A及びBは同一であっても異なってもよく、水素原子、ハロゲン原子又は8個までの炭素原子を含有するアルキルを表し、Arは置換されていてもよいアリール又はヘテロアリール基を表す)の基を表し、

Zは水素原子か又は18個までの炭素原子を含有するカルボン酸の残基を表す}

の化合物。

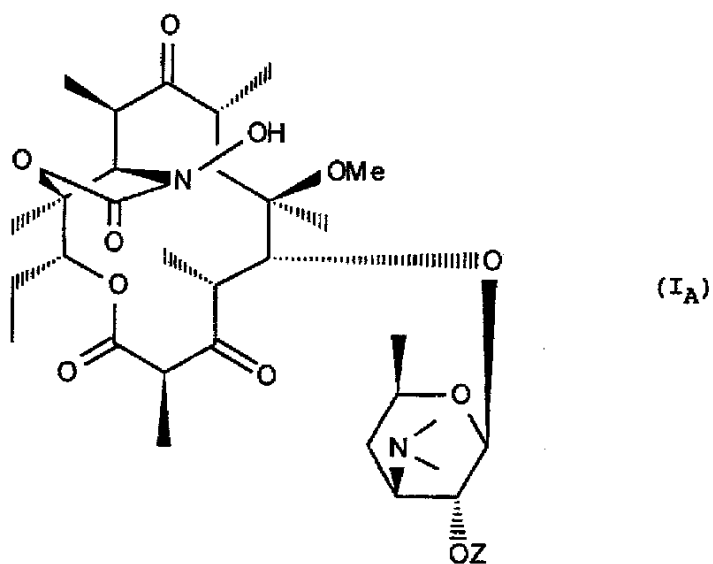
2. 請求項1に記載の式 (I) の化合物からなる薬剤。

3. 請求項2に記載の薬剤を活性成分として含有する製薬組成物。
4. 請求項1に記載の式(I)の化合物を製造するにあたり、次式(II)：

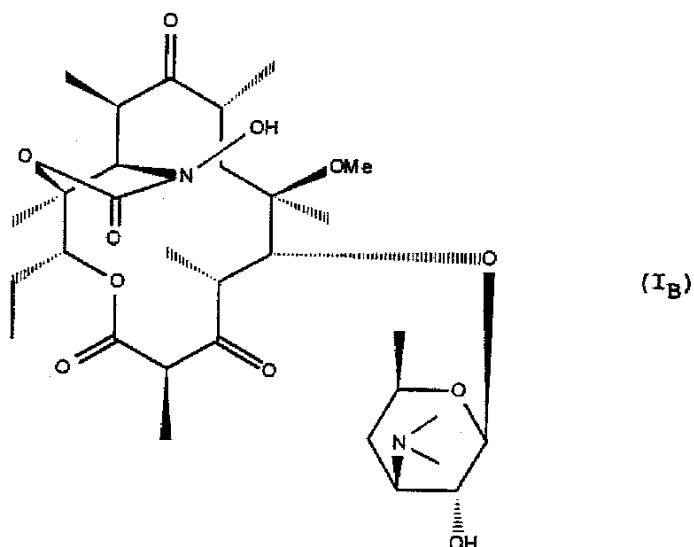


(ここで、Zは上記した意味を有する)

の化合物にヒドロキシルアミン又はヒドロキシルアミンハロゲン化水素酸塩を作用させて次式(I_A)：



の化合物を得、所望ならばこの化合物に2'位でメタノリシス剤を作用させて、Zが水素原子を表す相当する次式(I_B)：

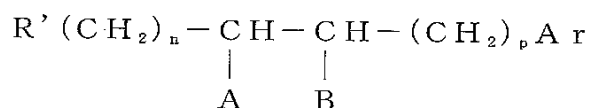


の化合物を得、次いで式 (I_A) 又は式 (I_B) の化合物に次式 (III) :



(ここで、R' は水素原子を除いた R と同じ意味を有し、H a l はハロゲン原子を表す)

の化合物を作用させて相当する式 (I_C) の化合物を得、要すればこの化合物に式 :



の存在しうる二重結合の水素化剤を作用させ及び (又は) 2' 位のヒドロキシル官能基の遊離化剤を作用させることを特徴とする式 (I) の化合物の製造法。

5. 新規な化学物質としての次の化合物名を有する式 (III) の化合物 :

- ・ 4 - (3 - ヨードプロピル) キノリン
- ・ 3 - [1 - (3 - ブロムプロピル) - 1 H - イミダゾール - 4 - イル] - ピリジン。